



疾家須知

一名病家こころえ

四

武  
25  
4







病家須知卷之四

目録

- 婦人持病の心得ヲ ○ 懐妊の心得ニ ○ 胎の歌斜より執る病のことヲ ○ 胎教のあはれ一知 ○ 産むりのあはれ五
- 一切のむらひけを治する薬のたと五 ○ 鎮帯を用る心得ヲ
- 形名の妻貞烈よく夫を諫て功を成しむる圖ニ
- 鎮帯の圖説ニ ○ 胎児のあはれ一知 ○ 産むりのあはれ五 ○ 子癇を治する心得ヲ
- 産むりのあはれ五 ○ 一切の病の心下ふらむるの救ふたと一
- 妊婦小便通せざるの心得ニ并み圖ハ四 ○ 臨産小便通せざる時の事ヲ并み圖ハ五 ○ 附産後小便通せざるを救ふことヲ并み圖ハ六 ○ 催生薬の心得ハ六 ○ 臨





病家須知卷之四

- 産の心得ヲ七 ○難産は安小鉤を用て害あること十八
- 妊婦らるる人々肝要の事十九 ○産椅の害あるあらはし
- 産尊を製するふと并ふ圖廿 ○ふくら児の心得并ふ圖廿三
- うづと子の聲をあげざるのを救ふ法并ふ圖廿四 ○産後の
- あつちえ廿五 ○ちのけめまひを救ふ心得廿五并ふ圖廿六 ○ちのけ
- めまひのゆゑの病因廿七あること廿七 ○同冷水を用る秘訣廿七
- そのの病を救ふ心得廿八并ふ圖廿八 ○そのの病おこるる事廿九知こと廿九
- 血のいづふ下るるを救ふ心得卅一并ふ圖卅二 ○同水を用て治るる
- こと卅三 ○同ちのけめまひと兼りのを救ふと卅一并ふ圖卅二
- まへてなごちの婦人へ寝るふ心得あり事卅三 ○胞衣下るる事卅四の
- 心得卅三 ○胞衣下るる事卅四を知りていづち婦人あること卅四



病家須知卷之四

婦人持病の心得と説

凡婦人女子の宿病といふもの、起原は性質柔順からば、  
 猜疑ふく。人を怨世を尤心情の偏僻たるより發ものか不。  
 そとといふ小といふを。婦人も十の八九は偏心愚癡なるもの  
 小く。そのく小挂念間斷なく。悒悶病とあること多けしを  
 王。男子より喜怒哀樂の情感易た、目前のことのみを執  
 く遠識なき。婦女の常態なき。いふ小才氣あるとも。男子の  
 思慮小ら。いふぐり及べきと自反く。一切の心畫意匠を一掃盡  
 く。詮さること小思を費む。舅姑の己小阻も。夫の吾小歎も。皆定



とる因縁インエンどと明ミめく。何ナニごととも介意コトモシむ。中饋アサナフの事業リサ墜棄オウタラぐ。慈ジ恤ヒを旨メとし。一切モノゴト遜順ナダラカし。失行オモシヤクふかくバ。漸シダシ小心コロンクナノビヤカ裏寛ウラカン平ヘイ小コあり。く。いのかる艱困ナンガ小遭アワことありくも。とを苦クとかもふ心ココロも發オコラむ。鬱悒キムスボルヤマヒ爲病イフと云イフことあるべらば然シカレバ。病苦ビヤウクの去イニのまをらむ。憎ツラヤもやゝく愛疎アイソクも自親オソクニく。後榮ノクスエヤカヒと期身キミとありぬべし。故ユエ小婦フ人の攝養ヤウレウヤとく外ホカ小託タムべさこともある。たゞ心意ココロの收攝ウサマリと身體シノミの怠慢オコタリと誠マコトんことおと切要カンヤウある。世ヨ小宿痾ジュクモナとくさせることある。あけまとも。平素ツクニ心意ココロの放遣ハヤルヒマある。或アヒち疝瘕シヤクキ小困クルシメ迫シらむ。いのおをれども治ぬと云類イフも。且カク予コの教シラセ小從シラセて。灸藥キウヤクを託タシこせむ。專婦センフの四德ヨツノトクといふ。和順ニガクニ貞固テイコその道ミチを己オノが持藥ヂヤクと存心ソンシン婦德フデク婦言フゴン婦

容婦功ヨウフクの四事ヨツノコトと導引ドウインと常小思ツクニオモフく力行リキョウをバ。疏懶シロランの癖クセも自然ゼン小歇鬱敗ヤスヒメタメ之意ココロモトもいつ一の轉クマく。氣血キケツの循環ジュンガンよく。子藏イノイナ病瘕ビヤク疝の類ルキも。大槩オホカキと鑿イシヤの療術レウジュツを待マツ小及オヨビば。治イユべきあり。のくさること初ハジメのあひぶら難堪ナンカンあるやうある。決ケツく爲得ナレユたさこと小あらむ。必奮發カナクニ試シロムべし。こは婦人フニヤリ攝生ヤウレウヤリの大本モトあり。懷妊クワイニシのこゝろえとよく。凡天地アヒタの間マダ小生シヤリあるもの、子コを産ウマさるるあけまとも。人ヒト小難産ナレザレといふことありく。之コレが爲小命イノチと隕オトスことオホヤの多オホヤいのかることぞや。禽獸トリノクダモノも孕ハラムことありくも。自然ゼン小委マカセくさら小枝意チエを交マシラことある。己オノの身ミの飛動アツカヒ小閑イトマあけま。體カラダの運化ウンカもよく。臨産サンノトキい



あゝあらんと沈思もあらぬべ。氣の抑鬱もあく。故小産甚易し。  
人もまゝ如此。懐妊の初より自然の條理小従ふ。我意を加こと  
あく。臨産とあらんのかくあらんのと。回心費思ことなくし  
。唯人倫道小背ことあきと攝養とせべ。數孕をもるとも穩と産  
て其兒もまゝ強健あり。然と人小のゝ艱産多々。皆攝生修身あ  
しく自爲尊小く。己心のら吾身を害ものありと知べし。自然の  
條理小従といふら。いふも其心と和平小して懊惱をもること  
あく。欲を省慮と寡し。假令有身とも。居恒の動作裁縫蓄御の職  
身の級小従く。毫も怠ことあはるべし。農婦はたゞ挿秧耘草を  
この前へ屈こととのとと廢しくよし。貴人も朝夕小己が爲べき

業あくとも。強て園中あど閑歩。然べき舉止をあして。必く逸惰  
なることあく。或ち常小昔の聖賢君子の書をどと讀せと。聽こ  
こと吉といたまふべし。茗燕十炷香線管の戲伎も。臨時てハ爲  
たまふも可。耽く行々好しあらば。懐妊の中風小冒ん寒をや感  
たまはん。障屏設置。衣衾襲小被まぬらせと。たゞ氣の抑鬱と  
とのとあきハ。腸胃の傳輸も自遅慢。胸腹支痞たまふと。聞ひ  
としく喧嚷。漫才黄芩地黄等の泥滯やとと藥物を安胎主劑と  
謬執させる疾あさ小も。妊娠の保攝とと進まぬらひるの類悉  
妨害とあらぬことあし。豪商大賈もこと小準しと。保養過宜の  
失の自然小背ことあはる小より。産の害とあはるもの多。熊婦田姫



あどち。且夕の營爲小隙をけよハ。逸居べきやうもあく。副急た  
る病ある小非ハ。薬を用る痛苦も知む。故小産前後の障害も火  
素より貴賤貧福其常を異小。衣食坐卧小その別あるよ非也。  
貴も人も賤もまよ同ト人あり。體小何等の差別あるべき。然  
バさせる病もあさ小。何の保護の薬あらんや。惡阻ありとも。月  
日を経よバ自然小止もの小く。強く鑿療を加る小も及む。况藥  
のミを據て産の易んことを望む。大ある左計小非や。然んよ  
至ハ飲食を節し。體の運化を第一の用意とし。身孕ありと知く  
の後も。男女の交を嚴制夫婦辱を同して卧とあむるべし。是自  
然の道理をよハあり。この持戒ありけよハ。胎位を漸小軟斜小

あり。胸痞く咳嗽もあり。腰脚痠急く疼を知劇と感起こと能  
む。或る痔疾脱肛をもあり。小便通利ありくあふく。腰脚浮腫  
て苦悶もあり。腹痛下血もあり。産小臨ても胎兒の位置正ら  
れハ。順小婉ること能む。難産と爲甚さハ命を斷ことある小い  
たる。志のよあらば慾念の炎内小燃く。子をいよその氣質を  
稟しめ。胎毒もまよ之の爲小熾小あり。生来多病小く夫闘と  
るの憂あるの。不然ハ其兒蠢愚貪婪小く。不孝の子とあらんこ  
とも必然あるべし。世間小難産をもものよみる小。十の八九ら  
其夫妻多慾小く。慎ありき人小あか小。故小古昔を胎教とく。胎  
内より子を教といふも至理あり。今其胎教の大旨を略しよこ



こ小説ていへば。凡く懐妊一くより。其母益身を慎寝小側ば。  
坐小邊也。立小蹕也。邪味割の正のらぬものも食む。席の正から  
ぬところ小坐也。目小邪色を視也。耳小滯聲を聽也。夜も必端坐  
て聖賢の道を述たる書をも讀しめ之を聽身と懦弱なら  
しめば。安小喜也。怒也。哀也。憂也。高小陟也。遠小奔也。何小くも正  
のらぬこと。毫も耳目小觸心志小發ことありといへ。況く  
飲食男女の慾。戯劇遊侈の念をいふより起ことのあるべきか  
の色へ産前後の疾苦も知也。其生子も形容端正一く才徳の世  
小過たる人とあるといふら。其母の舉動の正小感一く。形を成  
神を發する。自然の道理あるべきあり。今の世小く如此小能也

こも胎内の子ら必母の性質小類似ものあること。常小忌  
身を責己を刻也。昔の胎教の一端ありとも修得するべきこと  
あらばや。さも色へ懐妊の攝生も。まゝ天地自然の道小從。修身  
正心の外小あらぬこと。よく識得べきことあり。

惡阻の意得と説

妊娠數月を歴く。飲食とも小吐逆一く容納おたく。諸藥効ある  
ものあり。こ色を強て止むとさるる却く害あり。一應藥を用て  
治ことあるべ。必灸藥を託せ也。自然小治を待べきあり。故い  
のふとあるは。併病もあさ惡阻も藥せしむ必治ものあると。  
誤く駛藥あてを用く。其自然小救戻たる治術を受ことあるは。



後必臍と嘔の悔あることあるを懼バあり。懷妊クワイニシ一々直小惡阻ツハリとあるもあり。五六月小く發オコルもあり。いづれも經脈和胎位定とさるらねバ治イユざること。先記得マヅくよし。然シカリと雖寒熱往來ありて。咳嗽セキをとも出漸小羸瘦セキオトシものも。それより一々勞瘵ラウサイ小あることあり。必緩者カヌヤべらば懷妊中惡阻クワイニシ小咳嗽セキを挾カチやめて勞瘵小成ナリて死ぬるものも、あり。或アルヒと孕中故マニチチなく。産後尊勞サンゴとあるもの。こゝら惡阻ワハリを強シヒて治ホトさんとしく發オコリするもあり。惣スベく諸病シヨビとも嘔氣ムカヒケ甚シく。一切サイの藥を容受ヤウイしたるものも。伏龍肝フクリョウカン一錢五モンゴ六分許フンバカリと水ミヅ小和マミヒ其水ミヅと澄清スマシて。粉コの交ぬやう小分トクく。火ヒ小温ユク生薑シヤウキヤウの生汁シヤウジツ二三滴フタタレを加クハく用ヨウさバ。大氐ダイテイの嘔オホヒケハ止トモむのハかり。水ミヅのま

ま小用コヨウることもあり。伏龍肝フクリョウカンといふも。田家イナカをさる年久トシキウありたる竈心カマドシマ小通赤マツカ小燒ヤキたる土塊ツチカあり。そを極細キョクシヨ老ラウふハく用藥ヨウヤク舗ポ小もあるものあり。この水ミヅ小く半復ハンブツを煎センし服モツるもよし。胃中イチュウ小汚穢イシキカクある。滯食シヨク小く嘔オホヒを發オコシたるものも。此等コノの藥ヤクを先マヅに効キコあり。こゝらと豫知ヨチチべし。鎮帶チンタイと用ヨウる心得ココロエとこく。懷妊クワイニシ小。古昔コソクよりの習ナラヒ小く鎮帶チンタイと用ヨウること。其利害シヨクの論ロン區々クニクニある。是コノも。元來ゲンライ懷妊クワイニシを天然テンゼンのものなま。鎮帶チンタイ小く胸下キョウゲを纏縛マンバクこと。可コトあらぬこと小く。緊繫キツケンとさる。胎タイの生育シヨクの妨害バウキ小為ナリて。難ナシ産サンの原ゲンと為ナリことあり。妊娠クワイニシ中小嘔逆浮腫オホヒケを患ウケるもの。この鎮



帯の害小由者か不し。故小近來帶下盤之と禁むること其理至  
 極せり。然らあはれども往古よりの俗習小く。孕婦五月小いこと  
 ば。着帶を祝こと。貴賤懸てしあり。千餘年の昔よりあるくの如の  
 弊のまさら止めたさる庸人の常あるは。強く鎮帶を脱しむは  
 ば。狐疑を生甚小至てら。紮定さるは兒肥太く産艱あるいふ層  
 説妄言と信とく。空小之の爲小識神を勞むるの害あり。故小た  
 だ布の粗薄もの單を用く。緩小腹上と掩纏。その端と挾て脱べ  
 のらざるまぐ小て。縛紮ことあるを可こと。かくもは胎の倚  
 斜をも防。その婦人の意も降あり。其説の委ことと。既小坐婆必  
 研小載たさ。此小る略しぬ。た。嚴禁へることと。婦人あり。四

形名婦義勇  
 諫其良人圖



神  
 李



産帯の事もの小をえたるも、右記源氏物語をよむと、めからん坐婆必研小もきで、小いへる如く、俗説の神功皇后三韓小もむきたまふ時、関胎小當たまひ、故小石を挿まふ事、おれ盤腸からんといへり、是を萬葉集小の鎮懐石ともあき、胎をいとし、鎮る證とをきべく、帯の始といひ、ひのたし、説者具竹集小奉たる人、いせぬと、へ小むきぶいとた帯と云ふ連句を引て、此帯をべいと、帯といひあひ、結肌と

この齋肌の義をきき、いと、この大綱、よて、今の世、小あがり、漆、このへるもの、あき、一種の漆、結、の各小あ、そのあき、さやうの心とせん、小覚、束、か、も、い、齋、肌、の名、詮、小こりて、夾、綱、を用、さる世、もあり、一、小、や、此、外、中、右、記、東、鑑、平、家、物、語、拾、芥、抄、御、産、部、類、記、な、ど、小、も、出、て、か、か、り、と、其、夫、て、つ、の、ら、結、へ、る、よ、い、小、み、え、又、著、帯、と、祝、こ、と、も、あ、る、を、思、へ、べ、いと、古、き、世、よ、りの、習、小、り、有、け、ん、の、し、唐、士、小、も、此、事、有、り、竟、て、美、便、方、保、産、心、法、及、俗、説、辨、小、引、處、の、婦、人、産、帯、記、を、と、小、い、へ、る、か、も、む、き、も、あ、ら、く、と、の、さ、ま、小、異、あ、ら、ん、あ、ら、い、あ、き、ご、も、あ、る、と、の、ご、と、く、ひ、ろ、く、南、北、小、さ、り、て、あ、ま、秘、く、と、き、く、も、さ、る、と、小、い、あ、ら、さ、る、べ、い、と、さ、て、今、本、文、小、述、た、る、帯、の、ゆ、ひ、や、う、と、挿、て、お、け、る、の、と、小、て、ち、紐、や、き、く、て、た、よ、り、あ、り、と、か、も、さ、り、か、の、ご、と、く、く、て、あ、る、ら、う、小、む、き、と、ん、も、ま、さ、あ、し、め、ら、ん、と、も、の、く、も、帯、を、る、人、の、心、は、安、ら、ん、と、第、一、の、こ、と、あ、ら、ぬ、



五月より後、夫妻同寝を戒こと、尤切要なること、小言がごこと、其他、惣て、身を、屈曲て、と、げ、い、を、労働を、爲、こと、ハ、可、の、ら、び、多、る、胎、を、轉、動、て、損、あり、農、婦、小、難、産、あ、る、ハ、妊、娠、月、満、ま、ぐ、も、あ、り、耕、作、の、營、を、廢、む、挿、秧、耗、稻、を、ご、の、前、へ、屈、む、爲、こと、の、多、もの、小、あ、り、と、さ、く、こ、と、ら、小、く、も、察、を、べ、い、月、重、く、交、接、さ、る、の、體、小、害、あ、る、こ、と、ら、の、の、農、婦、の、耕、作、の、勞、動、小、も、勝、り、慾、火、を、煽、胎、を、壓、道、こ、と、い、の、で、障、と、あ、ら、さ、る、べ、い、ま、と、世、俗、懷、孕、中、ら、脚、を、伸、し、て、臥、こ、と、を、禁、ト、體、を、屈、む、兩、脚、を、縮、て、寢、む、こ、と、尤、害、あ、る、こ、と、あ、り、若、如、此、と、き、バ、子、藏、絞、束、ら、さ、下、よ、り、諸、藏、を、壓、て、心、下、苦、邁、快、寐、が、た、く、孕、中、患、あ、る、の、と、あ、ら、む、胎、兒、之、を、爲、小



歌斜カタクリて難産ナンサンの原モトとある。必體カミタを屈カスこととなく。兩足リョウソクとも小適意コロキホト小伸ノビしと臥フスべし。尤モトモ一偏カクチ小臥カスらあし。時々トキトキ左右サカヘリへ轉臥マカヘリするをよし。胎少タイコ小くも斜カス小あることあはれ。その倚カカリたるるこの胸腹腰脚ハタハラコシヒ拘急ヒキツイて甚イタミき痛イタミを知蒼卒オホエ小起坐タナシあり。たさ小いたることあり。然シカドが疾高ハヤカク手の蓐母トロハダの乳鑿ニシイキの車熟コトナレたるものを乞コヒく。按腹アツプクして胎タイと正位セイト小復カテしむさば。腰脚コシヒの牽引ヒキツリを速小治スイチあり。俗家レロウト小くも手テを下オロシて縱容コノロシ小胎タイの傾側カタクリたるかさより按オシく正中セウチュウ小至シバ。隨分スイブン少コトの偏カクら治オシものあり。妊婦ソノナニナ自行シヨクもよし。其時ソノトキ小く仰臥ウラカキて先胸マエウラは正小腹セウハタまぐ徐々シヨクと心を静シズメく按排オササルべし。隻手カクテ小く力入チカラふたしと思オモハ。両手リョウテを層カマて切按シカトてよくく撫摩ナデサスべし。強按キョウオシても必カナラそさ小て

胎タイを損ソコるといふこととなく。其費意ソノコソツカヒハあるべうら。蓐月ソノツキ近チカからば。殊致意オホコソツカヒて毫コトも偏斜ヒカカヒ小からぬやう小をべきことあり。産小臨サンカて苦惱クネヒの多少オホコト。皆胎ミナタイの正セウと偏ヒカある小由ヨルことあり。故小懷孕コトイニの切緊カニエウとあることあり。まは臨月リセツク近チカからば。大便オシの燥結ヒケツせざるやう小在念コノコトべし。産小臨サンカて胎タイの出路デルミチを礙サマく。免身ウケムシのぬることとなく。あることあり。故小をこし小くも燥結ヒケツ日ヒと經スことあらば。速藥ハヤクを用ヨクく宜ヨクかど小通利ツウリあるやう小をべし。ささ小もいふこととなく。懷孕イニる自然シゼンのものあはれ。孕ハスたるる必分カナラ娩マメべき小定サマたること小く。難産ナンサンといふを絶タテてある理ハダあると。皆保護ミナヨクの節フシのらざる小由ヨルて。空小苦惱カラクネヒのさからば。遂小ハ母子マコとも小命イノチ



を斷オトス小至イタルこは尤モトモト嘆ウツクべきことあり。又妊婦ハミメウチの留心ココロウチべきハ。月足ツキタて  
婉期ワンキ近づチカけば。腹肚ハラウチ急痛キレトイミ腰股コシモ、ヒキツリ拘攣ベン小便頻數シツクナリイキミ、レキカ息切オキキ小促オキリく。産戸マ  
も裂ハレんと思オモフふこの苦惱クルシミあり。否オヒハ婉身ワンシるるさきものぞと先記マシコト  
べし。而シカレと微スグニの陣痛シキリハシ小失措アハテて。今や分免カクイデんこと。其期フシも來マぬ小  
自心ミココロを勞オカスふ。己オノの意識イシキを妄ミダリ小悶オモシむるのさあらむ。舉家ヤウチ驚オドロキて。鑿イシヤと  
迎ムカフる人ハシラを走ハシラせ。穩媪ウヰンの來キタルの遲オソを罵イカリスリ。藥ヤクは白湯サユよと躁擾オチサカキの聲コエ嘩ウツく。  
そ色イロらのため小もまキガノガセ氣逆ハラワタて。諸藏ハラワタを上部ウヘノカタ小牽引ヒキツクく。遂ツビ小ハ難ナシ  
産サンの原モトとさるるあり。故ユエ小孕婦ハラミメウチダイ第一コノサケの用意ヨウイハ。陣痛シキリハシ促オモシとも。努イキ挿シ甚シ  
くあるまで。堪カン忍ニンの感オモシヤクハ旁人ソノノヒト小告ツケことさきとよしとをべし。其ソノ  
夫親フツオヤ及貴人オビキの婢長ソノカセラもこの用心ココロエかけさハ。産婦サンブの爲善タメヨロシらむ。假カ

令洗娘トシメの未詣イマ小婉ワンし其兒ソノコを收トモこと過時オソクともよく包裹ツミヒ寒カ風カゼ  
小さへ冒アしめむさハ。決ケツしく害ガイハさきものあり。産婦サンブの心氣ココロモチだ小  
平ヘイ小して。上逆ウヘノガセの患ウチヒさくハ。胞衣ハシも速オモカ小下オスべきことより論ロン  
さし。假令オモトヘ胞衣ハシの下シタること遷延ヒヤヒルとも。必患オモシヤクべきこと小あらむ。こ  
とまた胎兒オウイ免身クサレイテて。其用廢クサレハ必下オモシヤク去オスべきハ。自然シゼンのこと小く。日  
數カズ經過スダさハそのま、子藏コツボ中ノウチ腐壞クサカスレて。終ツヒ小出イッべき小定オモシヤクりた  
るものさきハ。さるく初ハジメより産婦サンブの意ココロの降オチて。胞衣ハシの下シタさる小  
懊惱オウノウせぬやう小さること尤オモトモ切要カンエウあり。さハ胞衣ハシ下シタらば腐カサ  
瘻ヒキウを發ハシし。暴死キコレスルさとの變ヘンハ決ケツしくさきことありと思オモフべし。故  
小このこと小豫カチ孕婦ハラミメウチ小示諭イヒキカセウべきことあり。猶末オホスエの胞衣ハシの條トコ小



於く辯折と看く知べし。

妊癩を救心得と説

此病を妊娠中の劇證小し。呼吸促迫眼目上吊口噤反張て。人の省なく。その胸下堅結く心小衝逆勢甚しく苦澁あり。倏忽小發ものあはば。醫師を招小も多ハ副急おたさものをあり。故小之を救の法と豫て識得べきことあり。其法を妊婦を仰小卧し。右の拳を以て。さく其左旁小從く。婦の脚の方へ面を向く坐く。右の拳を以て。婦の左の乳の正下の肋端の不容といふ處を。力を極て抑按べし。但し心窩の方へのけり。按處ハ肋骨端腹部小く乳の直下と記へし。右拳小く力足む。左手を右の上へ添く力を合べし。

尤周身の力を手頭小在し。強按小非ハ制止おたり。あを按もの、小腹小努力を入り。切と應手あるやう小をべし。掌をさく小て抑力よりハ。腰を定て正と抑壓おたが利ものあり。や、苦迫寛小あると知ハ。拳も從く縦て。勢の旺衰小任。緩急宜と得べし。心小毫も怠慢なく。たハ其勢の靜あるとさハ。力をを用ること微せさむ。拳疲て勢旺とさ小抑定おたけむ。あり。月満く拳の胸下小入おたさもの。四指頭を用く按もよし。容易の力小てハ中く壓鎮おたさこと、思へし。決して按て胎を損んると疑慮ことある也。其患を必あることあり。あを圖を參窮へし。こは小限を。一切の病の心下小衝迫こと劇もの。此術を施てよ



姪癩を救ふ圖



雙手カガクゆる力チカラ足アタさる  
 合アヒハ  
 合アヒハ



同症ドウシヤウ月満ツキミツく拳コブシの  
 胸下ムネシタ小入コウジュのたき  
 を四指頭シジサキを用もちて  
 按オスふところ



四指頭シジサキを用もちて按オスふ  
 掌テのあひところ



腰コシの力チカラをいきて抑オスえんが  
 たゆ小掌コテを帯オビのあひとこ  
 按オスふところ



一。世小謂足痺衝心の類。小兒の癩瘻をど小もこの意を用こせ  
を按て効を得とあり。前の小兒の條下小記たるをも。こ、小互  
檢て考べし。

小便通せざるべきの心得ととく

懷妊中小便通利あしくあり。漸小閉塞く終小も涓滴も通せぬ  
やう小あり苦懣ことあり。如此症を尋常の小便通利の劑を寸  
効を元のこ小あらむ。却て浮腫腹滿を増し。飲啖もあらば横臥  
もあらぬやう小なり。假令小便利ても。身體の疲憊素小復し  
がとく死小いたるあり。故小その前あらば速療治せ補へあら  
ぬ證あり。六色を療治する小。藥のこ小も効あることあり。

高手の産科を識得ことあり。そ色小託く手術を乞得て。疾小  
便の通りあるやう小をべし。そ色まら小をいたらばとも。胎兒  
漸大小を色べ。小便通利あること小怡礙やう小あり。まら尿  
道閉塞やう小慮て。いつも通利爽快あらば困苦をることあり。  
このまける。小便の滲きたる囊を膀胱といひく臍下小あり。  
其口を陰戸の上際小出たるものあり。さく子藏を其後小位し。  
前小を膀胱の尿道あり。後小を腸の尿道あり。其間小嵌まり。  
この子藏胎兒の月を重く生長する小隨く張大あるあり。も  
故あり。前へ倚斜の下小垂く。横骨上際へか、色べ。膀胱の口  
を壓也。小小便の通路を閉塞て快利のぬるあり。こ色を藥小



て通トさせんとする。たとへば喉を絞らるもの小噴薬  
 をもるの如効應あることあり。喉を絞らるもの速その手  
 を放バ氣息通理小く。膀胱莖小壓ところの胎兒を提起て鬆と  
 してバ洩利也。其法を廁小登く小便を毎小已の両手を以て横  
 骨上際へ重按く。上ののさへ胎兒を提挈やう小して膀胱莖を  
 壓ものを寛とバ。小便速小利あるあり。之を提起小ハ重掌小て  
 先小腹の皮を下へ引をり。横骨上の腹皮小餘裕あるやう小  
 て。その手を横骨上際小投入く。大小力を張く擡舉さとバ。下墜  
 たる胎の復やう小るらぬあり。小腹の皮を下へ持満ら。上へ  
 提さきの餘地あらしめん。爲あり。さくさくと小便しとをり

て手を放也。妊婦自提こと能はバ。便器小跨しめく。一人其背後  
 小在く。婦の帯をゆるめく袂より手を挿く。前の如く横骨上際  
 小隨く胎兒を向上をり。何も下の圖を看て檢べし。まよ已小産  
 に臨て小便膀胱小實て。兒の出路を礙をバ。必先其小便を通を  
 べし。其法を妊婦を便器小跨しめ。常小洩をるごとく小し。車  
 慣たる婦の隔心をゆるめものゝと小よく諭告く。産婦の背後小  
 接。その跨間より陰戸中小食指と中指をふのく挿  
 て。子藏の前ののさへ追ものを釣曳て。上へ擡舉や  
 う小をさバ。膀胱莖寬鬆て小便快利也。胞裡の洩泄盡たりと  
 もハ手と放べし。かくしと通利をとるうち小。疾産科醫の高





妊婦小便通すのぬるこた  
己の両手を以て胎を提挈する圖



こゝの症あるものハ、  
懐妊中よりその飲喫を  
ひらへさせ給ハ、のちらげ後  
害あること豫慮へし。

同症人として提挈をむるかこた



産婦の少少調ふ



産後の小便閉と

通トモと云ふことあり



「本文」小腹痛の左の隆起  
隆起と云ふことありその隆起を  
按ずるから尿道へ徹て疼を  
おぼゆるなり

手あるもの。生婆の術小精ものを招く託べし。まゝ産後卒小便通せをしく苦悶もの。其婦の小腹の左方。脾樞骨と横骨と相接ところの内廉の腹部小。微隆起ところある。そを按ば尿道へ徹て疼を知あり。その處を按ぐ上の方へ勾引やう小をさば小便利むるあり。おさも初小言ごとくして。下の方へ扯く。皮小餘裕あるやう小せ糸。痛を知るあり。便器小の、らせて背後より行へ。左の袂を祖せくそをより手を挿てよし。産婦萎頓たるもの。仰小卧せく綿絮を陰戸小あて、行も可この三症何も小便通利の劑小てら効あるもの。小。輕視小をさば不測之變小逢ことあり。遡専門の人小聽てその治術を受べし。今



此小述ものら。たゞ急卒の用小具んぶ爲のまらう。

催生薬の心得を説

世小臨産の催生薬といふものをモチラ用ること。俗套ムカレヨリをさども更小其理ソリをたことあり。時來トキキダラをいする。いふ小奇效フシギの薬ありとも。婉得ウツクべたもの小あらば陣痛シキリムシ頻とさ小。さやうの薬を連服オホククしむと。却タツく胸膈ムチ小泥滞ナヂて害ガイとこそある。利リあること決クワしと無ムるべし。もく薬クサリ小く免身タマシものあらば。草木クサキの果實ミも糞コヤシ漑シをさ小く。時の來キタルを待マテび速成ハヤチ成熟ジュクささる法ホウあるべけとも。其期ソノキ小至イタラば然シカこと能アタざるも衆人ヒトビの知シルところあり。か、さハ催生薬ハヤメグスリの益ヨキをたふとまゝ推知スシラヤスをす。去サるらあとも有病者ヤマヒアルモノとはと常ツネの例レイ小あ

ら杯ハシハ薬クサリの用絶ヨクタく無ムといふ小あらば臨産サニカをた陣痛シキリムシを忍シて時トキの來キタルを待マテびその耐タへたき小至イタラく坐イカリ草ヤシ小ら如シカむ必カナラシク々ト着急シヤク焦セ燥ルことある也。これ第一ダイの用心ココロエあり。

臨産の心得を説

産小臨サンカ産カ難ヤ婉レら胎タイの歌斜ユガム也小由ヨルもの多オホけさハ産媪トリスカ小告オコく過正位ハヤシホシ小復カヘテしむべし。産媪トリスカ術コト疎アとさハ旁人カタヘノヒトよく腹ハラを撫オシて微オホ小カても倚斜ユカミたるものも按オシて正中マシナへ復カヘテべし。己小産サニせんともる期キ来イタリくも腰間コシノアヒダより股胯モ、ヤマタへ牽引ヒキアり。坐卧オキマシ自由ヨユカからむとく重オホキを知オホシ。肝カ門モンの方カタヘへ膨脹ハライガやう小もあり。小便オシ頻ヒシク數コト小く忍シむたく陣痛シキリムシ來イタ頻ヒシク或オシも兩手リョウテ十指頭ジュウシヨウ小脉動ミヤクノウツウを自知オホシルもの。こゝら免期ウツクキ近チカ小在アリまゝか



うる候ヒトあヒトくヒト倏ヒト忽ヒト一陣痛ヒト小ヒトくヒト免ヒト毛ヒトのヒトもヒトあヒトきヒトどヒトもヒトをヒトきヒトらヒト少ヒトるヒト  
ることヒトあヒトるヒト。已ヒト小ヒト婉ヒトんヒトとヒトるヒト小ヒト至ヒトくヒトらヒト。腰ヒト間ヒト殊ヒト小ヒト重ヒト墜ヒト。周ヒト身ヒト小ヒト熱ヒト  
と發ヒト額ヒトよりヒト汗ヒト出ヒト。眼ヒト裡ヒト小ヒト華ヒトをヒト視ヒト。陰ヒト戸ヒトのヒト裏ヒト脹ヒトたヒトるヒトのヒトとヒト疑ヒトきヒト。陣ヒト痛ヒト  
堪ヒトかヒトたヒトくヒト。破ヒト漿ヒト先ヒト出ヒトをヒト微ヒトとヒトくヒト。胎ヒト児ヒト子ヒト宮ヒト口ヒトをヒト出ヒトるヒトをヒトりヒト。古ヒトよりヒト  
分ヒト娩ヒトがヒト男ヒトとヒト俯ヒト女ヒトとヒト仰ヒトといヒトふヒトらヒト非ヒト小ヒトくヒト。男ヒト女ヒトとヒトもヒト俯ヒトかヒトらヒト産ヒトてヒト。  
地ヒト小ヒト落ヒトバヒト仰ヒトありヒト。破ヒト漿ヒトとヒト云ヒトらヒト。粘ヒト滑ヒトたヒトるヒト液ヒト小ヒトくヒト。被ヒト膜ヒト自ヒト然ヒト小ヒト破ヒト裂ヒト  
てヒトこのヒト水ヒトのヒト逆ヒト散ヒトとヒト。胎ヒト児ヒトらヒト車ヒト乘ヒト小ヒトくヒト。滯ヒトあヒトくヒト陰ヒト戸ヒトをヒト脱ヒト出ヒトるヒトりヒト。  
一ヒト切ヒトのヒト動ヒト物ヒトそヒトのヒト生ヒトむヒトるヒト小ヒト先ヒト鼻ヒトよりヒト以ヒト。竺ヒト土ヒトのヒト古ヒト昔ヒト。人ヒトのヒト母ヒト胎ヒト小ヒト  
形ヒトをヒト成ヒトことヒトとヒト説ヒトしヒトもヒト其ヒト理ヒトをヒトいヒトへヒトるヒト小ヒトくヒト。漢ヒト土ヒト小ヒト鼻ヒトのヒト字ヒトをヒト初ヒトとヒト  
訓ヒトもヒト其ヒト意ヒトあヒトたヒトきヒトりヒト。今ヒト胎ヒト児ヒトのヒト産ヒト小ヒトもヒト先ヒト鼻ヒトよりヒト也ヒト。天ヒト地ヒト自ヒト然ヒトのヒト妙ヒト

理ヒト思ヒトべヒトしヒト。故ヒト小ヒト其ヒト面ヒトをヒト陰ヒト戸ヒトへヒト向ヒトくヒト鼻ヒトよりヒト産ヒト出ヒトるヒトのヒトもヒト出ヒト産ヒト決ヒトしヒト  
てヒト礙ヒトあヒトけヒトきヒトどヒトもヒト。破ヒト漿ヒト後ヒト時ヒト過ヒトきヒトどヒトもヒト。胎ヒト児ヒトのヒト産ヒト門ヒトをヒト出ヒトことヒト能ヒトぬヒト  
ものヒトもヒト。こヒト胎ヒト位ヒトのヒト正ヒトあヒトらヒトぬヒト故ヒト小ヒト。面ヒトをヒト向ヒトてヒト娩ヒトことヒト能ヒトぬヒト。頭ヒト臚ヒト先ヒト  
出ヒトてヒト陰ヒト戸ヒト小ヒト挿ヒト也ヒト。下ヒト墜ヒトあヒトたヒトれヒトよヒト由ヒトものヒト多ヒトいヒトのヒト小ヒトもヒトきヒトどヒトもヒト産ヒト出ヒト  
あヒトたヒトくヒト。生ヒト嫗ヒトのヒト術ヒト小ヒトもヒト及ヒトあヒトたヒトきヒト小ヒト至ヒトくヒト。世ヒト間ヒトのヒト帶ヒト下ヒト鑿ヒト竊ヒト小ヒト鈎ヒトをヒト  
用ヒトてヒトこヒトをヒト曳ヒト出ヒト也ヒト。此ヒト鈎ヒトをヒト用ヒトきヒトハヒト顛ヒト骨ヒトをヒト傷ヒトゆヒトゑヒト小ヒト免ヒト出ヒトくヒトもヒト児ヒト  
らヒト死ヒトぬヒトるヒトをヒトりヒト。あヒトきヒト止ヒトことヒトをヒト得ヒトざヒトるヒト計ヒトよりヒト出ヒトたりヒトとヒト雖ヒト不ヒト仁ヒトのヒト  
所ヒト爲ヒト尤ヒト惡ヒトべヒトれヒトことヒトもヒト。そヒトのヒト生ヒト胎ヒトもヒト死ヒト胎ヒト小ヒト諉ヒトくヒト。俗ヒト人ヒトをヒト瞞ヒトものヒトあヒト  
きヒトハヒトありヒト。其ヒト他ヒト先ヒト手ヒトをヒト挺ヒト或ヒトるヒト脚ヒトをヒト出ヒトまヒトさヒトらヒト横ヒト産ヒト小ヒトくヒト手ヒトとヒト脚ヒトとヒト  
とヒト交ヒト出ヒトるヒトとヒトもヒトるヒトものヒト。其ヒト他ヒト坐ヒト産ヒトとヒトくヒト先ヒト屍ヒトをヒト見ヒト以ヒト類ヒトのヒト手ヒト術ヒトのヒト及ヒト



さるものち。悉コトクのの釣カギを用コトここのと認コト甚ハナさ小至ハナてち。寤サカ生のコ  
尤免身モトモツマシ一ヤスキめ易ヤスキもの小。釣カギを以コく兒コを害コロシたり一コもあり。の、るこ  
とを其心ナニモオモヒ一ミダリく。妄ナストモオホシ小爲オホシ徒多オホシ。ゆゑ小人セケシ裏ヒロキの廣タメ之タメ爲タメ小タメ子タメを殺コロスも  
の多オホキら幾イラダク何ナニぞや。近頃チカキち收トリ生アゲ媪ババ小も之オコチを行オコチものありと聞キケり。釣カギ  
を用コトることも皆俗家ミナレロク小秘カクレコトニサシ殊産婦ブ小ち知シラセさるやう小シラセをること  
あまは。醫士イシヤ坐婆トリアケバの術ワザ小由ヨリて命イノチを續ツナたりと喜ヨロヒども。己オレが子コもこの  
の釣カギの爲タメ小殺コロシたることシラを知シラさるる。蠢愚アヤマレクアハレムキ可哀アハレムキこと小シラく。名利メイリ  
小奔世人ハシレの慘虐ムキドクナゲク。嘆息ナゲクべきのニユきりあり。故ニユ小今イマ丁寧チンゴロ小告諭ツケヲヒユべ  
さら。胎タマも被膜フクロノウチ中の水ノリを車ノリ乘モノ小一ニユく滑脱ヌマリダレテクマレ免身オモシといふ。自然シラセの理リ  
小意コトを潜トメて審思クマフツラシあは。その之コレを救スツべき手段シユダシら。俗家シロウチ小シラくも發ハク明メイ

とべきことあり。況シテ豎家トリアケバ生ハハ媪ババ予イラの辭マテを待マテて知シレべは小あらば。  
予ツレらた。釣術カギツカヒの世ヤメ小廢棄ニチリて。兒コの横死ムリビシをるものあらんことを  
欲ホクの。素専門モトモツセン小あは祢セハキと。婆心セハキの黙止モダシをく。俗家シロウチ小告諭シラスレを  
其蘊奥ソノクワキニケ小至イマリてち。世ヨの收生トリアゲババ媪ババ小傳ツタヘく廣天下ヒロク小行オコス一オコスめんと思オモヒ  
て別ベツ小手記シレシたる書ホンあり。惣スベてか、る禍ワガヒ小罹カレも。其原ソノモトを檢ツツさる。皆ナニ  
攝生ヨクシヤの天理サカヒ小逆サカヒ心意ココロの和平スナハをらぬより起オコルものあまは。婦人メナの  
るもの豫カナテより懷孕クワイニシの自然シラセある理ワケをよく明アキラて坐卧オキフシ飲啖タベモノを慎ツレシ心ココロ  
意モチの寛舒ノビ小あるやう小シラをべはことあり。も一サナク不然イナク一イナク徒小イナク  
とことと熱中陣痛アヒヒツラヒシキリムシの耐タヘのたきや。努イキ拚ヒ小も。心ココロ身を勞費オカラレ氣逆キリホセの  
と小く。諸藏經脈シラフタチノミヤカミ上カミ小牽引ヒキツリ腹肚ハラウタ擾亂テンドウ一ツヒ卒ツヒ小難産ナシザシとあるも



のあまは。今、婉身までも。心意平素小異ことある。必其自然小委  
べい。どの期至杯。いゝ小思とも産産きもの小あらば。こまら  
のことと常小記得て忘さるやう小まべたこと肝要あり。然こ  
れら必難産なく。婉後の變もあるべらば。故小此一條より外  
小用意ありと豫思べし。まゝ産椅を用ること宜らぬこと  
あから。是まゝ習俗の常あるを。卒小廢ふたしと雖。凡て産後小  
も心身萎頓ものあるを。産椅中小端坐せし。睡小も頭を俯しぬ  
む。もい微も偏バ旁侍者之を警覺し。七夜を過まらむかくのお  
とく小まること。習ともいひあるらも。其状宛もうつ、せぬ小  
類し。産婦の精神大小困憊虚乏。血液の運行遲滯易く。後日の

病因とあること明あり。惣く産椅中小在間も。腹中寛裕あらぬ  
や。残血の洩路を挂碍こと多。腸胃舒暢あらざらば。飲食の消化  
も柔順あらば。動ハ熱を醸し。乏食眩悸頭痛をぞし。便利調は。膝  
脛麻痺。後々も脚痺痿躄小あるものあり。故小産椅の害を爲こ  
と如此居多を知。断然用べきもの小あらば。孕婦ある家翁及  
婦人も。此理を會得せ。他より問訊ものいあることをいふ  
とも。そまらのこと小疑惑ことある。産椅を去く用ることある。  
婉後らた。枕の方を漸小昂し。常のやう小脚を伸く側卧小  
まべし。その蓐の製ら下の圖を看て知べし。世間小用ひ来し産  
椅を廢てら如何あらんと。疑惑解やらば。平素注意て産椅を



産褥之圖

被褥敷を重層て  
凸凹をならしめ漸く昂

あるやうにして

只肩の當處を少西

側より低し其上小褥子

を鋪枕を軟ある

その代用で褥の下

より紐ひてつりと

おけて轉ぬやうにせよ

枕の昂々宜とも餘に昂

好らば大要頭と脚との

高低一尺餘を程とせよ

七日を過ぎて少低し二七日

程から常の如しとる可

或は褥子小の圖の

ごとくふこしらへ

よるもよ

下のうへあけん

おもはるもの

別褥子

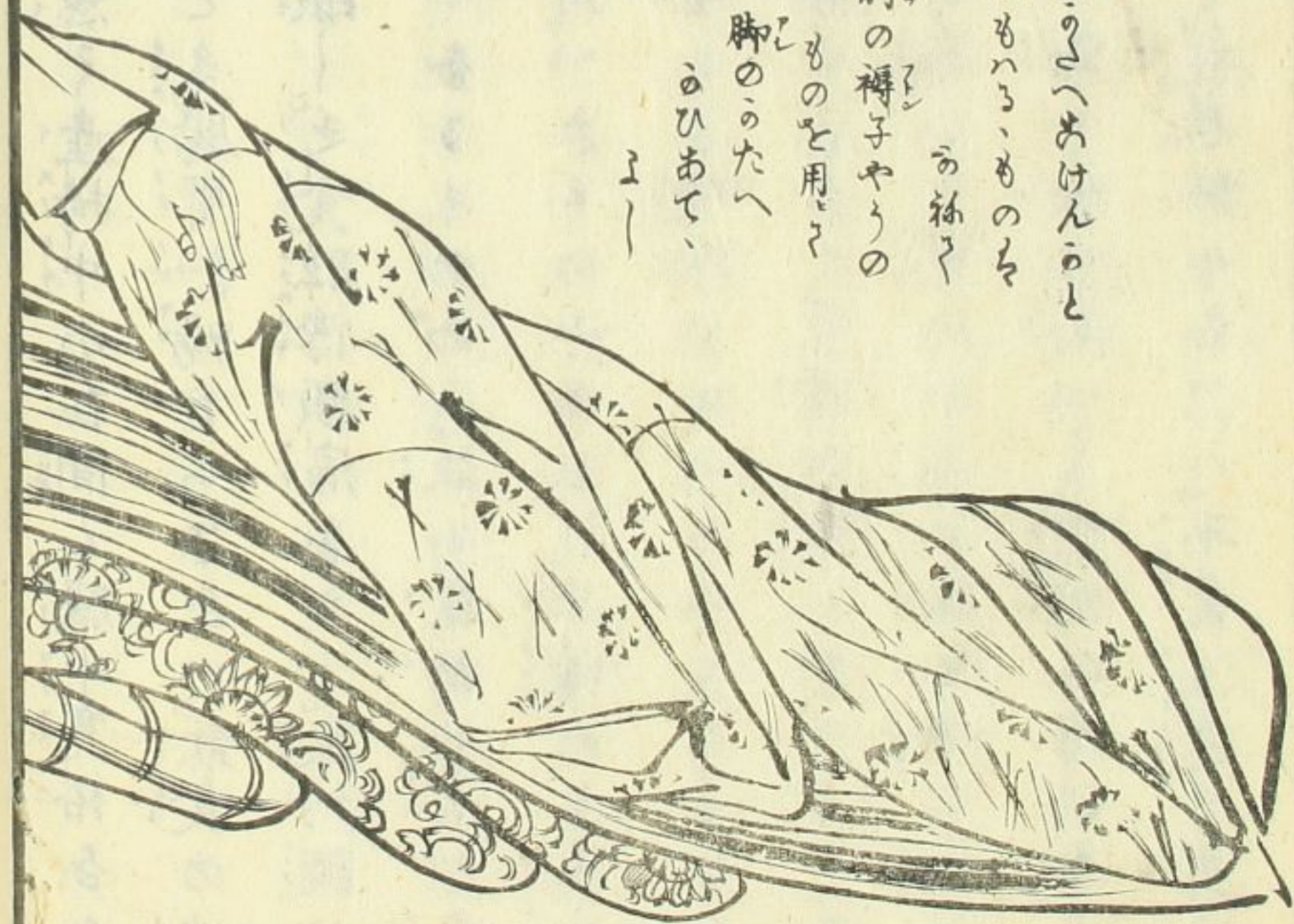
別の褥子やうの

ものを用

脚のたへ

ひいて

よ

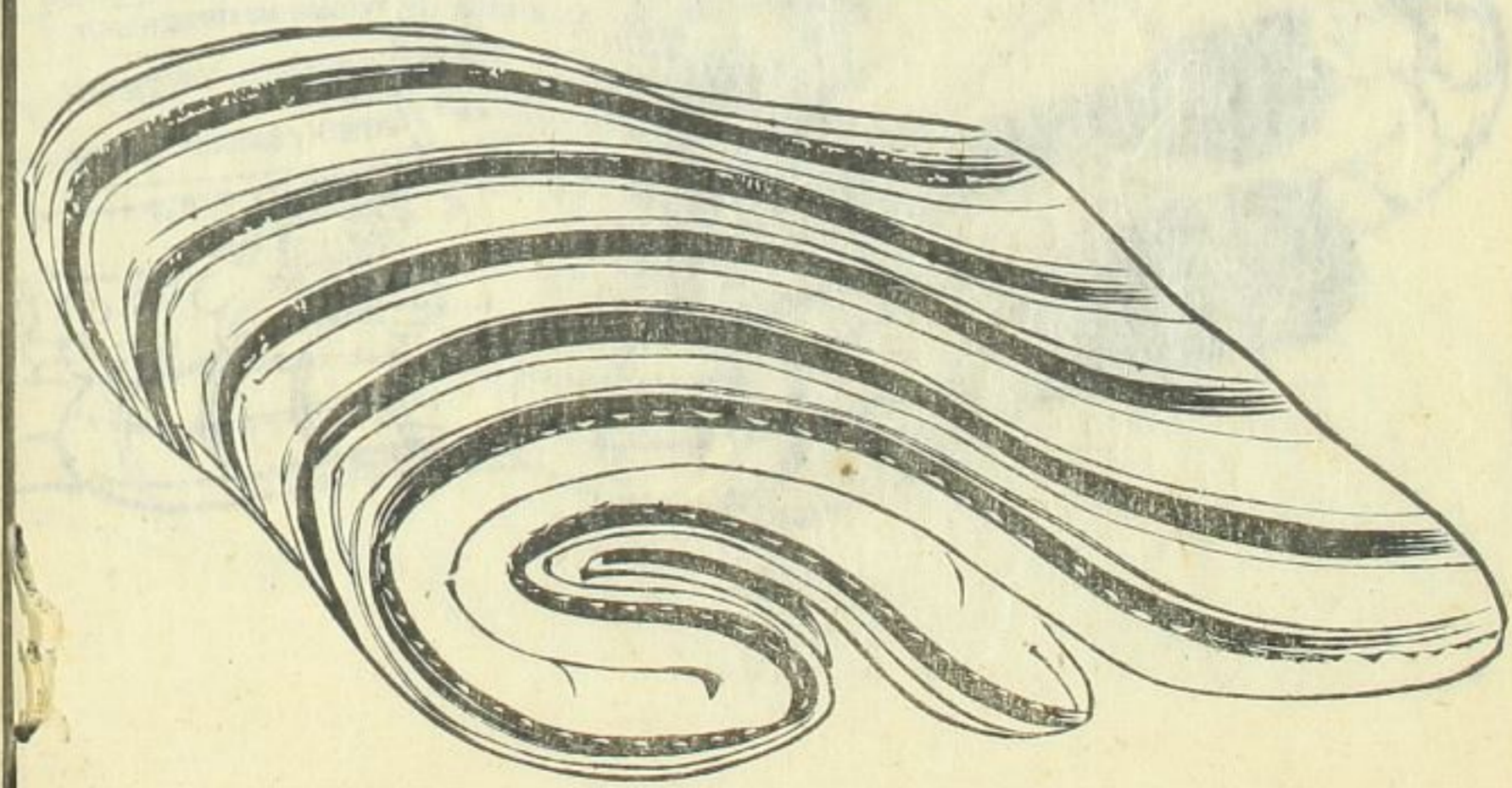
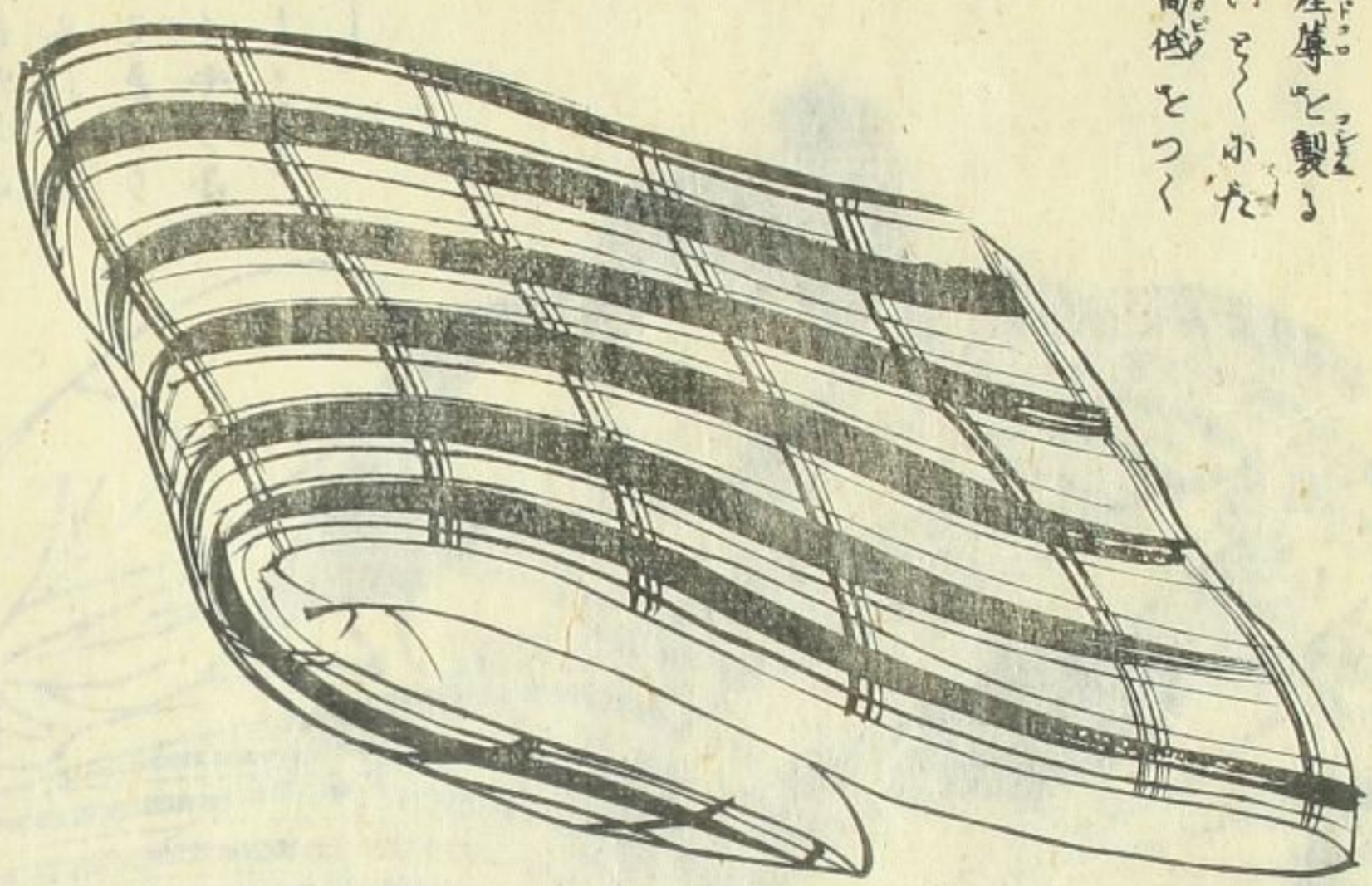


圖をその状を示ため  
あくのおとくあれども  
産婦の體はこきより  
おちつくやうに  
きることこそ  
ろふ



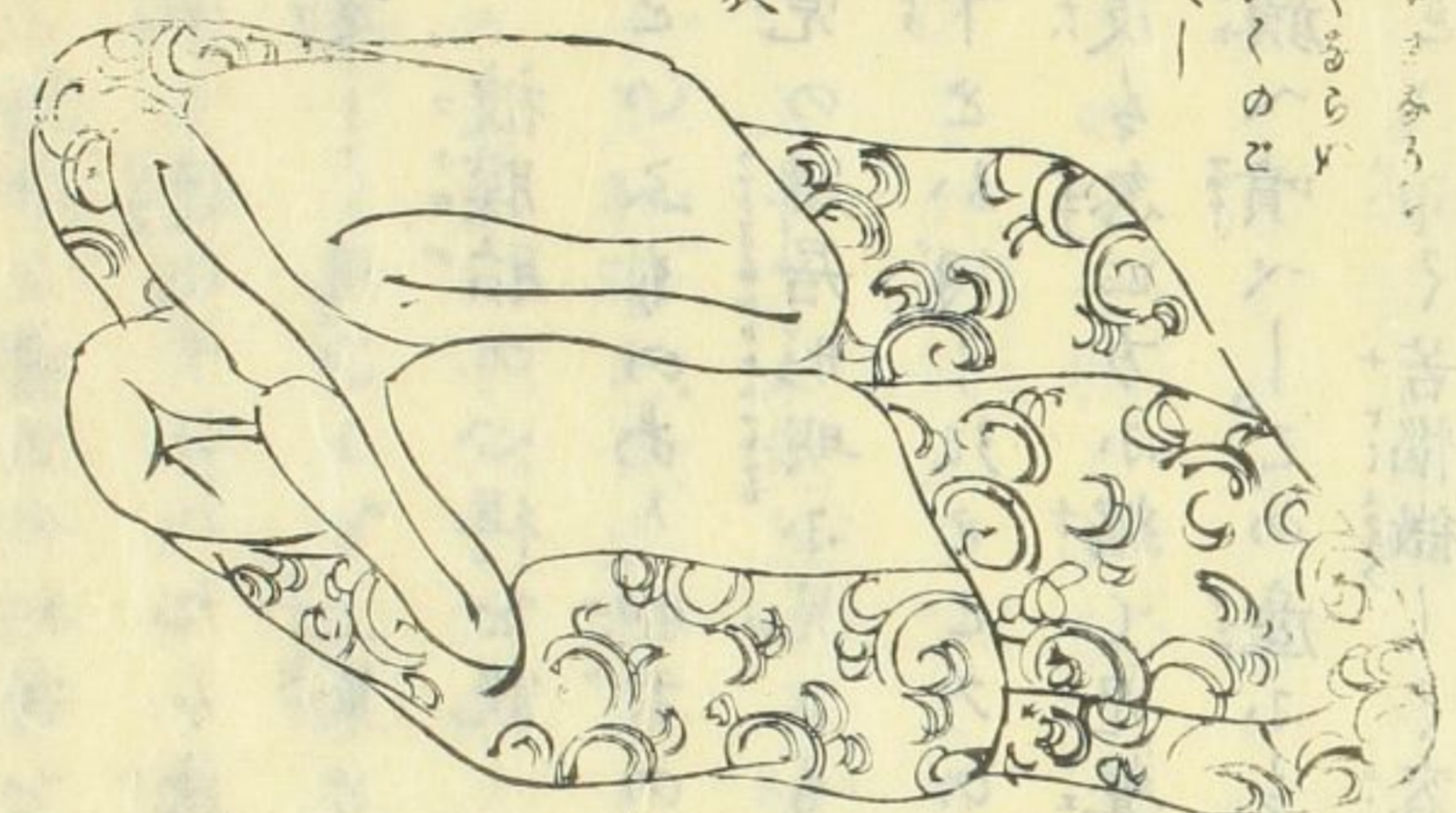


茵褥を用て産尊を製す  
 小なるくのかさくかた  
 こゝて漸小高低をつく  
 るあり

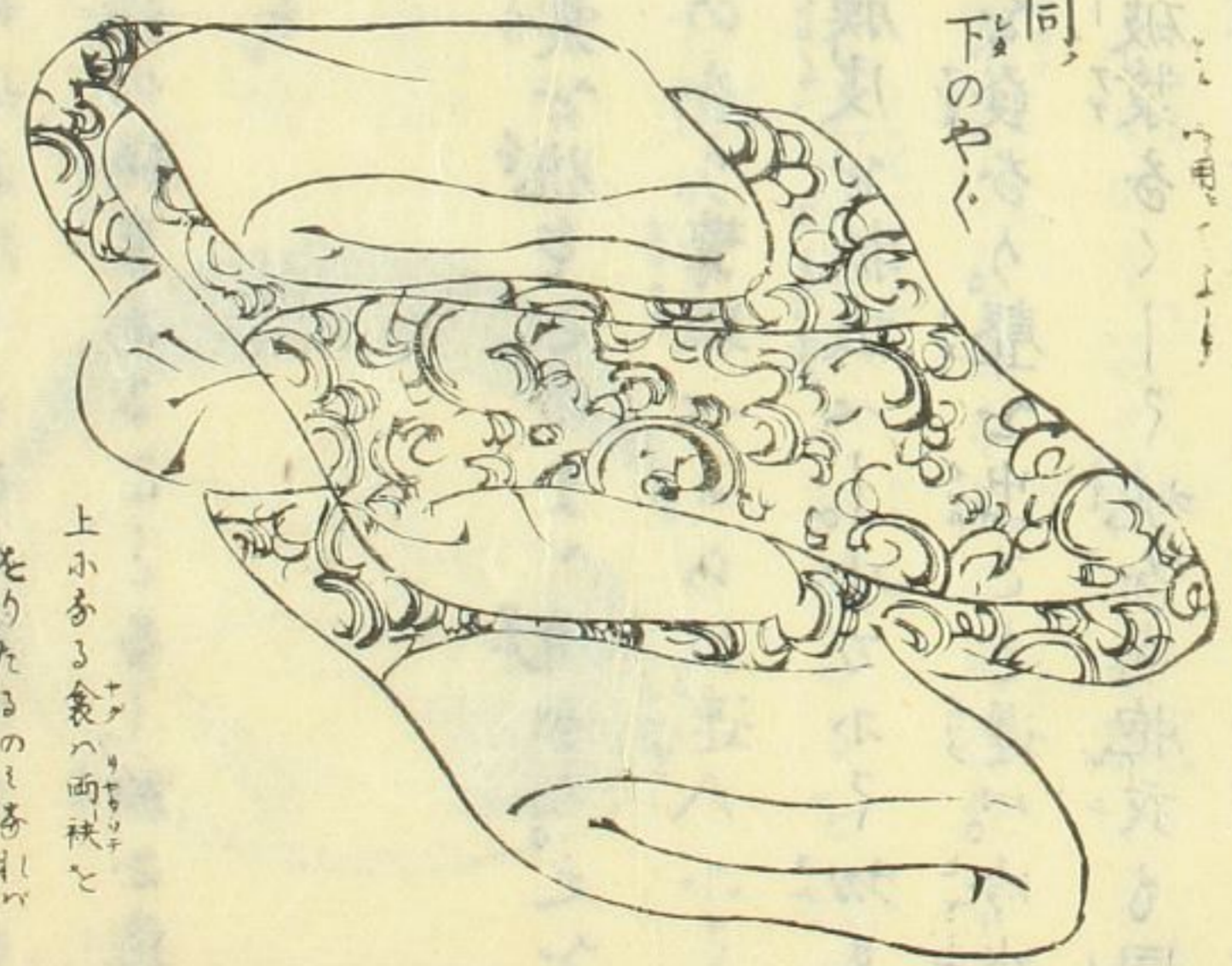


被褥 襦の たるら  
 中央のたるくさるら  
 やうふしてかくのご  
 とく小重層べー

前の圖  
 中の衾



下のやぐ  
 同



上小なる衾ハ両様と  
 をりたるのこゝを  
 こゝに圖せき

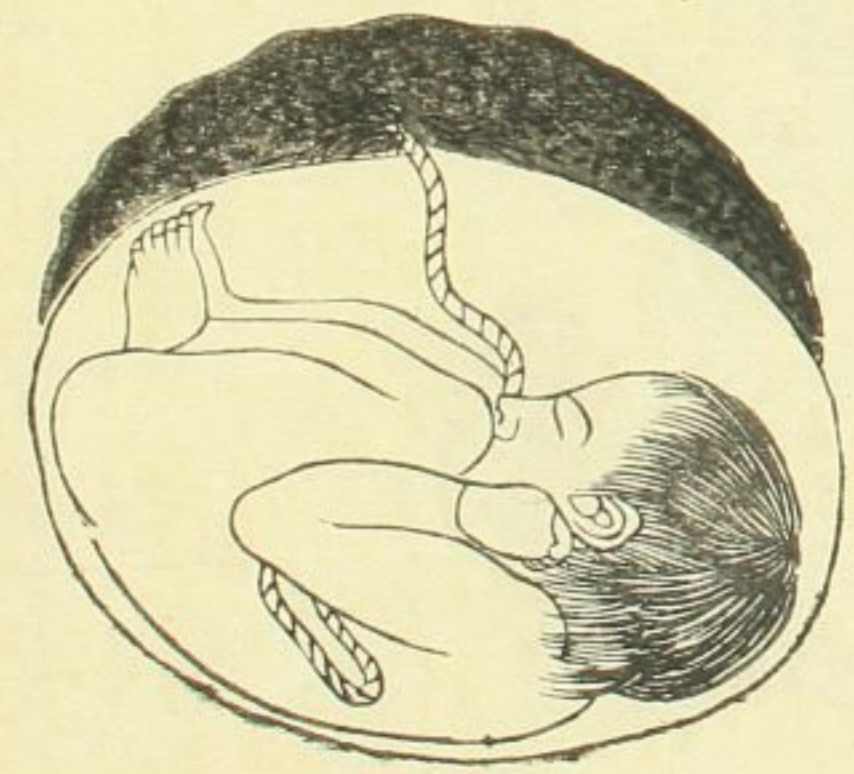


用る人。用ざる者との利害を辨知せしむることあり。其用ざるもの  
の復素も速小。十の八九は産後の病患あることあり。故小産  
椅を決定し用ざるを上策とす。

被膜胎の心得と説

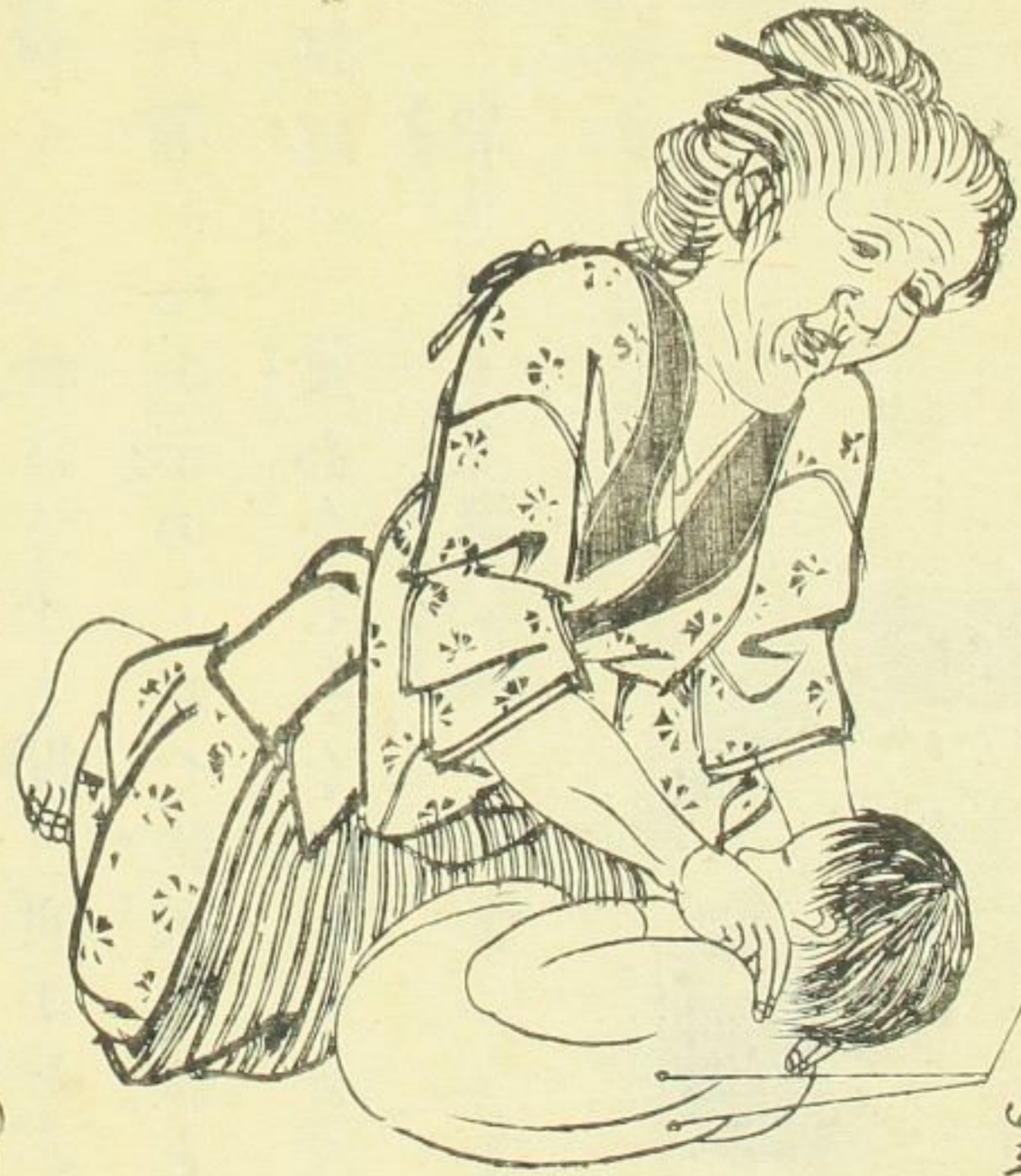
被膜胎といふものあり。胞衣の囊を脱ぎそのまゝ、娩あり。之を  
透視す。児の蹲居形明小見るものあり。驚駭べらば速爪小く  
児の頤下とかぼりたところの膜皮を打破す。小刀小く切も  
よし。膜皮を忽四方小縮て児聲を發せり。聲を出こと遅バ。冷水  
と児の顔へ噴べし。この産小く破漿をくくく娩あり。胞衣も同  
續て出まバ。却る苦惱微く容易し。一家小くこの冒膜兒を産

たるもの其異状小驚怖て之を捨さりしと聞り。世小をきらの  
みとあはれ小もあら祢バ。圖と此小示のこ。さて胞衣と膜とを自  
別あるものを一物と誤認する輩あり。とせ此小用をたこと  
あまべいとび。審知んと要もの。坐婆必研小記載するを視べ  
し。因小いふべき。兒落地と聲を發  
む。或る手足軟痿。色青白。死ぬる見  
ゆるもの。まづ冷水を頭面及背上  
へ頻小灌べし。とせ小くも聲發ば。吸  
呼もあはれごとく思るもの。仰小  
臥しめく。肩井より膏育の邊に背の





五七推の二行せり  
 を指頭小力を専て強  
 揉とき小ち多ち聲を  
 出さる聲發たる後ち  
 壯健ある婦人の懐小  
 く層小著温べし。男子  
 も無妨臨産期過る。母  
 子とも小虚憊さる者  
 小多あるおと小く。尤  
 識得べしこと也。



二行せり  
 五六七の  
 このあさりの  
 ことと  
 らふあり

産後の心得を説

産婦を椅子小在しめく。横卧を禁せし流弊も全金創を縫裏帯  
 ろど施さる後身體を動搖し。創口再破開て。血の洩出ことあら  
 んのと懼て。危坐をよしとせしより。錯来さるるらめと。産後の  
 泄血もをせしとら大し殊小く。少けきバ必後害あること小く。  
 且天理の自然小く病小あらば金創など、同一小ち心得べ  
 らば。殊産椅の害衆多こと。坐婆必研小も記さる如き也。斷然  
 廢て用ことなく。前小圖をること小臥褥を造る側臥小さを  
 べし。必起歩く幕小着しむべのらば。匍匐小さをるるより。をせ  
 らのことも坐婆必研小説ありせり。産後小鹽を禁る。瘀血の下



こと少のらんこと戒懼るあきども。毫も喫しめざるる食を拒  
く害とあることあきバ。宜らぬことあり。魚類ら惣く禁じ性  
味輕淡る用く苦む過小食禁の嚴ら却て不可ことあり。くきく  
も天地自然の正理小く孕さり生さるもの。鎮帶を用て  
緊束し。産椅小坐く苦楚しむるうへ。飲啖をまゝ嚴制し。味を  
失しむること。いさぐの生意小適べ。然せんより。初小其色  
慾を戒。身體を運動て。消化小礙なく。心氣を和平とし。憂悶を  
のらしむることを巨益ある也。又産婦の室中を冬も温燠小をも  
可けきども。火爐を多安。數人會聚る好らば。時々便房の屏障  
を徹鬱塞たる氣を排洩べし。夏秋の亢陽小も。桶子も窓戸も悉

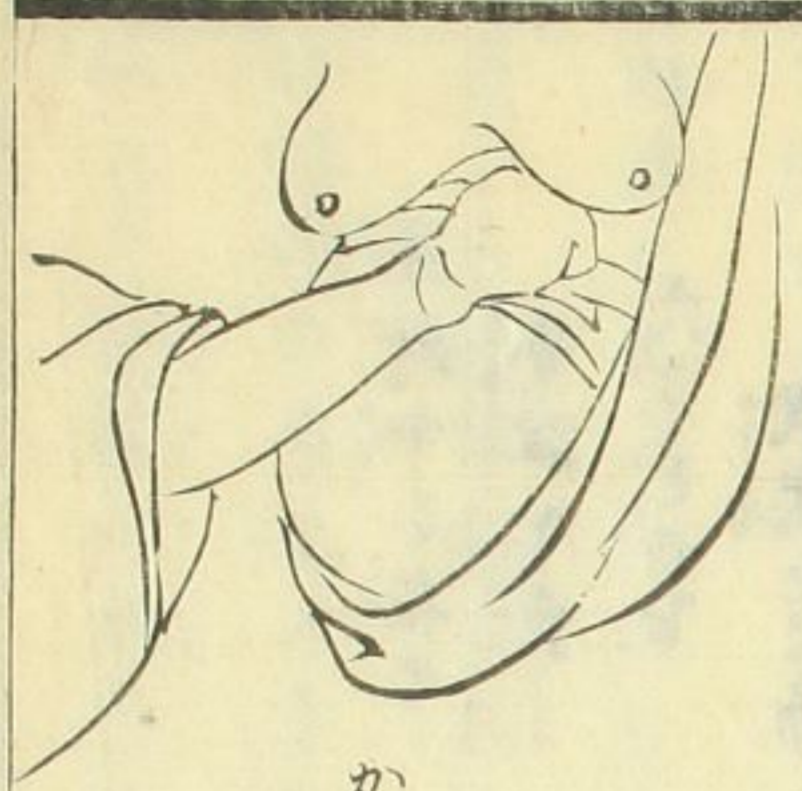
開く。清風の往来あるやう小をべし。屏風蚊帳も無用あり。も  
室裡鬱蒸とせバ。産婦肌熱し。汗洩るどし。體倦病發く。不測之變  
を招ことあり。ゆゑ小四時必其氣候小從く。常の棲處と異こと  
なく。旁人も居小適やう小をること。あき第一の心得あり。今の  
世豪商や貴族の産後小。諸患ありく。平穩ならぬる。この用意あ  
しく。自然の道小戻の故あり。このことよく顧慮あるべし。  
眩運のこゝろえをこく  
産後の眩運劇く。腹を上部へ牽引やう小あり。胸へ衝逆ゆゑ小  
頭眩或運轉く。生氣を失あり。急卒小發もの小く。鑿工も問小あ  
えぬことあり。此症も下より衝突く。心窩を左の肋の下へ連く



急迫<sup>オシセアル</sup>ところの塊<sup>カク</sup>ある。そを<sup>オシセアル</sup>壓鎮得<sup>オシセアル</sup>と<sup>ハヤキ</sup>然<sup>ハヤキ</sup>。劇症<sup>ハヤキ</sup>をも救<sup>クウ</sup>べし。ゆゑ病<sup>ヤミ</sup>發<sup>ハツ</sup>よりとみ<sup>ミ</sup>バ。捷疾<sup>チヤク</sup>その婦人<sup>メノ</sup>小向<sup>コカヒ</sup>。左手<sup>ヒダリノテ</sup>をその右脇<sup>ミガハ</sup>下<sup>シタ</sup>より回<sup>マヒ</sup>る背<sup>セトカ</sup>へ抵當<sup>アテ</sup>乳<sup>チ</sup>下<sup>シタ</sup>の肋端<sup>アツノヘ</sup>へ右手<sup>ミガハ</sup>の大指<sup>オホササ</sup>と食指<sup>シヨササ</sup>とを左右<sup>ヒダリミダリ</sup>へ開<sup>ヒラキ</sup>て其衝<sup>ツキ</sup>逆<sup>サカ</sup>もの<sup>モノ</sup>をきびりく下<sup>シタ</sup>の方<sup>カタ</sup>へ壓<sup>オシ</sup>下<sup>サゲ</sup>やう小<sup>コ</sup>をべし。拳<sup>コブ</sup>頭<sup>カビ</sup>小<sup>コ</sup>ても掌<sup>テ</sup>側<sup>サカ</sup>骨<sup>ホネ</sup>小<sup>コ</sup>て按<sup>オス</sup>もよし。産<sup>イ</sup>椅<sup>ス</sup>小<sup>コ</sup>在<sup>アル</sup>もの小<sup>コ</sup>多<sup>オホ</sup>け<sup>ヒ</sup>き<sup>バ</sup>其時<sup>ソノトキ</sup>に按<sup>オス</sup>者の左<sup>ヒダリ</sup>足<sup>アシ</sup>を伸<sup>ノビ</sup>。婦<sup>メノ</sup>の右<sup>ミダリ</sup>方<sup>カタ</sup>へ身<sup>ミ</sup>をきつくと入<sup>イ</sup>る。婦<sup>メノ</sup>の體<sup>カラダ</sup>を靠<sup>カカ</sup>しめ。左<sup>ヒダリ</sup>手<sup>テ</sup>と婦<sup>メノ</sup>の項<sup>カウ</sup>へ勾<sup>カケ</sup>。志<sup>ココロ</sup>つゝの里<sup>ウラ</sup>と抱<sup>カキ</sup>婦<sup>メノ</sup>體<sup>カラダ</sup>の些<sup>スコシ</sup>も動<sup>ユレ</sup>揺<sup>ユレ</sup>ぬやう小<sup>コ</sup>し。左<sup>ヒダリ</sup>右<sup>ミダリ</sup>の手<sup>テ</sup>を緩<sup>ユル</sup>む。殊<sup>トシ</sup>右<sup>ミダリ</sup>の手<sup>テ</sup>を毫<sup>スミ</sup>も動<sup>ユル</sup>ること勿<sup>ナ</sup>し。かくしきも生<sup>シ</sup>氣<sup>キ</sup>つゝらば。旁<sup>ソバ</sup>人<sup>ヒト</sup>小<sup>コ</sup>冷<sup>ヒヤ</sup>水<sup>ミヅ</sup>を婦<sup>メノ</sup>の面<sup>オモ</sup>へ頻<sup>シバシバ</sup>噴<sup>フキ</sup>しむべし。水<sup>ミヅ</sup>をかくる間<sup>マヒ</sup>も按<sup>オス</sup>たる手<sup>テ</sup>を慢<sup>ユル</sup>べらば。徐<sup>シヅカ</sup>々<sup>シヅカ</sup>とそのまゝ

産<sup>サン</sup>後<sup>ゴ</sup>の眩<sup>メクラ</sup>冒<sup>マウ</sup>を救<sup>スク</sup>ふ圖<sup>ズ</sup>

この術<sup>ジュツ</sup>を施<sup>シ</sup>る人<sup>ヒト</sup>の向<sup>ムカ</sup>へのま<sup>マ</sup>か、里<sup>ウラ</sup>ておのまか身<sup>ミ</sup>をひつたりとよせりけ。婦<sup>メノ</sup>人の體<sup>カラダ</sup>を靠<sup>カカ</sup>し、らるる小<sup>コ</sup>あら祓<sup>ハラ</sup>ハ。あゝえむたれことあまとも。小<sup>コ</sup>のその手<sup>テ</sup>術<sup>ジュツ</sup>を示<sup>シ</sup>んかためかかくる畫<sup>エガク</sup>るありその心得<sup>ココロエ</sup>てみるべし。



かふる小<sup>コ</sup>拳<sup>コブ</sup>を以<sup>もつ</sup>てさるるたち



産椅中小在て

昏眩を發し

たるをのど

曳出さころ



足の指さたふて

蟲のこふやう小

あまんとくあり

小身を曳く。婦の靠たる體の揺ぬやう小椅子より出。直小高  
 枕小横卧小さとべ。側卧さるまぐさほ按者の手をゆるめ  
 せ衝逆の勢の鎮墜を待べ。指頭疲たらば人と代しむを。手  
 を換るあひさも毫も慢弛さべ。らば少選をるうち小復素も  
 のあり。この昏眩の發小も多方の病因あり。瘀血下の衯く發あ  
 り。脱血小く發もあり。脱血より發ものち。過小其血を防ささば。  
 眩運も止ふたたもの也。其血を過の術も次小記をみる。胞衣下  
 せく運を爲もあり。何も胸下を按く壓鎮ることちかある。こ  
 の眩運の發んとするまへ小。口吻鼻旁肉潤ものあり。と色の  
 やぶく眼眶小及ものち。昏眩直小發をりと知べ。故小婦人の



顔をよく看る。按指頭の輕重を酌用をべたことあり。伏龍肝の  
細末まゝも麻の嫩苗と焼存性ふりするもの。はらる麻芋を焼  
たる細末の類少許を新汲水一盞を以て用べし。こゝ小一の秘  
訣を示る。産後の昏眩を治す。右の藥効ありといふ。冷水小  
く用るの故あり。冷水産後の昏眩を治する小妙効あり。故小産  
後直小新汲水一盞を喫しむると然る昏眩の患を防べし。こゝ  
往昔の遺法小く。近世の高名ある醫鑿も。黒藥といふものを  
冷水小く用ることを傳へ。其實は水小効あることを秘したり。  
そはも故あることあり。水小かゝる奇効あることを俗家  
も的實小知得べ。不測之變を救ふことあり。其説既小坐婆必研小

記載たどとも。再此小其梗槩を述べ衆人小論のそ。又昏眩發や  
いさや即死をるものあり。そはも逆知て衝逆ものを按壓をば  
救べし。も一既小昏倒脈絶呼吸も斷胸下を按ても其効ある。請  
一醫生の伎窮たらば。疾券術の精煉者を招べし。活法小く甦生  
をることあり。おは審べたことあり。おは後の急病の條と參査  
べし。

瘧病をさくふこゝろえを説

瘧と瘧とちもと類似たる病をさくとも。瘧々妊娠中發瘧を産  
後小發小産後小尤多瘧といふも。卒小角弓反張身體剛直て俗  
小棒を吞たるといふやうある形小ある病あり。瘧と瘧との分



痺病をさくふ圖



かかゝ症を臥さる  
まゝ小發したる  
ときの手術



起たるものを抑壓したる  
のち小この脚をさくふ  
さくふひ小曳て尾脊を  
さくふさくふかゝさく  
ぬちちひひきていあ。



産椅イマスのうちふく

瘧ソリと發オコシたるを

抑鎮オシメスするを

こきも前の昏眩サヤクの

ごとく産椅イマスより

出して側卧ヨコヨミ小させ

衾フタをかぶる



ら。癩カンを發オコシハ人車ヒトクルマ不省ヒナク瘧ソリを本生ホンナマを失ぬものあり。但タ一癩カンを心下ココロ  
大小苦憊オホコチクハク瘧ソリを心下ココロさせることなく。唯ただ身體カラダ木彊キキヤウ小あるあり。  
瘧病ソリノヤミ劇甚ハゲシキものも。あるく一とほ里サトの力チカラ小くを壓鎮オシメスふたれもの  
ある。疾ハヤク丈夫フツトコの臂力キカラアルモノ者モノを一病婦ヤメノの背後ケレロ小接マハラし。婦メナシの両腋ウデ  
後シタより男オトコの両手ウデを伸イレす。両肩カタより頸上クビノウエへ會マシす。十指テトテ相アヒ力チカラを用イ  
て下シタへ壓オシメスやう小をべし。起タチさるものを抑屈オシメスたらハ。頸勁クビノチカラ直ナさる  
臂ウデを轉マゼスふよし。向ムカフ小人オホコを居オキす。兩足ウデを扯ヒキく尻シラシをえつさしむるも  
よし。頸クビへ鉤カケたる手テをよほ縦タテむ。頃刻ヒサレク抑定オシメスささハ。病勢ヤメノチカラ平穩ヘイゼン小を  
らび。いゝ小も力チカラ耗ツカレす忍コシユがたくハ。男オトコの帶オビやうの物モノを用モトす。頸クビ  
上ウエへ懸引アツカケテべし。まゝ臥フシさるまゝ、小瘧ソリを發オコシるハ。其ソノ左右ウチ小拘オシメ



を側臥ヨコゴシ小こさせ。男ヲノミ其後小就ヨリマヘ前のごとくに隻手カタテを婦メナの腋オウシタ下タより肩カダへ出シく頭クビへ着サマ。隻手カタテを婦メナの膝ヒザへ托カサ。左右サダの力を悉ツクシて屈曲オシスルべし。まゝ産蓐イマス小在カて痙ソリを發オシナす。前小對ムカヒく坐スワリ。男子ヲノミの膝ヒザ小婦人メナの膝ヒザと屈オサ。右手ミタテを婦メナの左乳下ヒダリノチノシタの肋骨ハラボネと腹部ハラの分サカヒを按オシ。左手ヒダリを直スグ。頸コノより肩カダへ勾カケて抑屈オシスルべし。痙病ソリノヤミ發オシんときる前マ小胸肋乳ムネハラナの邊エタまでも攣急ヒキツリをヒキツリおほえ。やがて口顎クチアゴ小齒齦ハダキ小及オヨブものあり。卒ニハ急カ小發オシて鑿イシヤと招マコクむまもあはれことあり。志ココロあらんもの豫カキて記ココロおのバ。急キツと濟スグことあるべし。その術ビツを圖エを按オシく知ガべし。

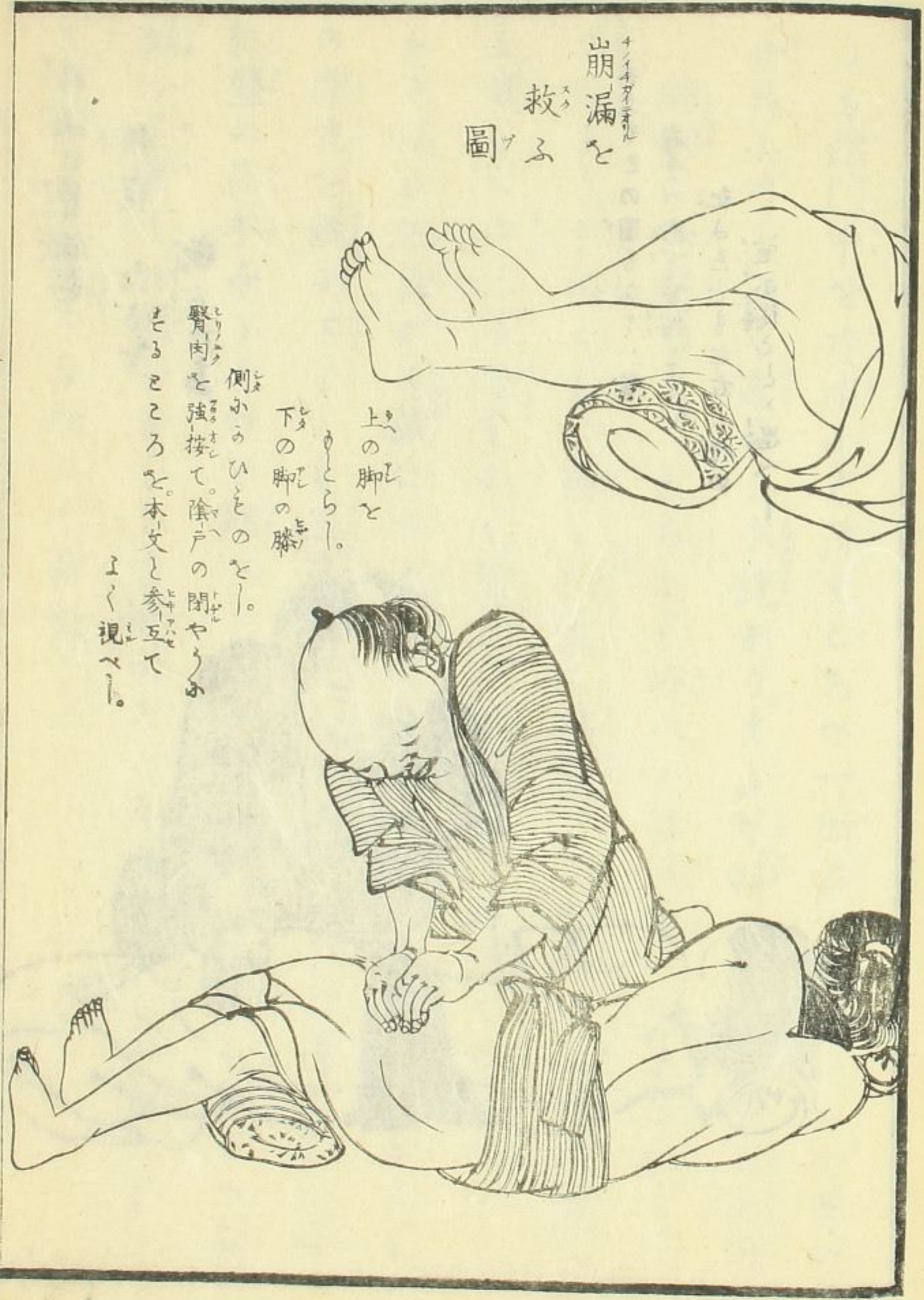
崩漏オシカオリスルキの意得オシとぞく

晚後オシゴ血漏チクダリ下タて止トマむ。眩暈メテヒを發ハクす。或オシも熱ユツと釀ヨモシ。汗アセ多出オシ。胸腹ムネハラ動悸ドウキ甚オシ。

かど種々サマサマの證シヨウあることあり。或オシも月ツキを聞コくも血チクダリ下タり止トマむたはものあり。かゝる類ルビその鑿藥イシヤを施ナメ小間ヒマあらば。敢アヘて懼オシ小足タラびと雖イヘたゞ其卒暴ソリニハカ小血泄チクダリささりて。盆モノを傾カサふ如ゴトき急遽證ハヤヒキシヨクあり。とせら捷急サツツク小其血ソノチを抑ヤメささへ。元陽ゲンキ忽マキマキ虚脱ソクダツす。鑿イと招マコクむまをばさへ。遂ツキ小死シ小瀕オモウものあり。之コレを藥劑クスリのコト小治イサんとせよ。決ケツて救スグことと得ウべらば。此コトの如ゴトく火急ヒヤカ小發ハクするコトあり。證シヨウを述ノべ。俗家シヨウト小も平素ヘイセイ記得キヨクて。其變ソノ小應オウをオシらるコトあり。此證コノシヨウ産後サンゴ小のコト限カギむ。常ツキの月信ツキヤクの時トキ小もまゝあることあり。之コレを救スグの術ヒカスら。其婦人メナを側臥ヨコゴシ小させて。下タ小あり。脚アシを伸ハシ膝ヒザの下タ小褥子フトンやうの物モノを疊タてあておひ。上ウ小ありたる脚アシを屈カサめ。臀肉シツニクを隻手カタテ小



てあると按て。頃時動揺ことある也。かくをさへ。陰戸闕て血の  
 泄下へれ道を壅遏との間小。子藏中の破裂細脉漸小愈て自然  
 小止ものあり。かくくも陰戸閉おさくおほゆるものも繭綿  
 を大さ團炭のごとく小束く。陰中へ深送入く。その後側卧小  
 て腎肉端と按へ。綿を意外小多く實もの小て。いさゝあかて  
 ち益あく。且木綿をわく。必繭綿を用ることと思へ。も一昏  
 眩を帯ものも。左手を腎右手を肋端不容の部を按こと。眩運の  
 條下小述のごとし。そをを兩人小く作もよし。まゝ冷醋を喫  
 め。或も口鼻へ沃のけ。あるひも塗もよし。病勢劇熱あり。動悸甚  
 小も。冷水を服し。水を頭面小噴ると尤捷効あり。その奇驗あ





崩漏と胃眩を

併發したるを  
救ふたふ



本文もこの圖も左手の腎  
右手の胸下と按こと  
記さるるも左右の時  
宜小從こと、思べし

る。陰門中を冷水ヒヤミヅ小く洗アラフところの一術ワザあり。とせ小兒の  
弄具モシモノ小竹を以て造ツクリる水鏡ミヅキョウあり。まゝ外科ガクワ小く金創キナキズを前マエ小用  
る銚銅シウドウの唧筒キョウキョウあり。こせら小く冷水ヒヤミヅを陰戸ヘノカド中へ頻シバシバ小彈射ダンセツこと  
尤妙モトモトあり。手術シユビョウ右の圖エを細覽トクタンて參攷サンカフべし。惣スベて久漏血ナガガクの婦人  
も寢イヌルふも必カナラこの用意ヨウイ小く。陰戸マヘの密閉トクアワやうスふして卧ススべ死シこと  
あり。はと胞衣ハクサンの子藏口コツボノクチへ溢滯ハサマリ。崩漏クワロウの止トメたさものあり。と  
の胞衣ハクサンを頓スバカ下オロスこと坐婆トリヤババの術ワザあり。坐婆トリヤババも心得ココロエなく。疾ハヤシ  
乳鑿サシクワの高手カウシヤあるものを招マツルべし。たゞてむやく鈎ヒキイ去ク。おとへ繭マユ  
綿ワタを送實カクて。側卧ヨコニ小さをカクまカクることカクをカクせカクも。こゝろえカクく  
てらカクるカクくカク施カクふカクたカクことカクあり。



胞衣エナオリ下オリさると其の心得をこく

児コタレ落地イデて。次ツギく胞衣ノチヤンの下オリるを順ビユンふとせむ。若モレ子藏コウボク口ク孳ヒキ縮レメて。速スミ小チ下オリ來キタさる時トキを衝逆昏眩ツキアゲノクルメキを致イタす。之コレを爲タメふ命イノチを殞オトスことあり。こを世間セケンの鑿者イシヤを胞衣エナの唐突ノボリく心を衝ツクものときをこも。是大オホなる差誤アヤマリあり。子藏コウボも子藏コウボの位置定キドコロサダメリあり。いふのと孳急ヒキツメルとも其部ソノトコロを離腸胃ハラヒラツタを排オヒキキく。逆ノボリて衝撞シヨウケンをすること能ナラぬもの也。ここと小分免後コウゼイゴの胞衣エナも子藏中コウボノウチ小蛻棄ヌギステたる寒物フヨウモノあり。何ナニの勢力イキホヒあり。の上迫ウヘノハルことのあるべし。然シカドといふ。昔ムカシより産後サンゴの胞衣ノチヤン下オリさるものと。鑿俗イシヤレロトとも小巨患イナダイシとありたるが由ユ也。小旁人ソバノヒトの倉皇失措テウロクモシのとあらば。産婦サンブも胞衣下ノチモノオリさる小焦心コウロウセシて。已オノレの死生イナチヤシをこ

の一舉イチダン小在アリと慮オモフふ故ユエに。氣逆キギャク甚シく。その餘響トビキを子藏コウボ不及オホシで。大オホ孳急ヒキツメルとあり。諸藏ハシラフ上迫ヘクトアガて。卒暴ソツボウ小死シを致イタスあり。免身コウジン後ノチこの胞衣ノチヤンも。人身中カシラノウチ小於オイく長物ムヨウモノあるの由ユ也。小暫時レバチク子藏中コウボノウチ寄託ヨリトシと雖元イトモチ氣幹旋キカンセン必カナラシことあることを厭イヒヒて。排擠ハシビクんと思オモフふ自然シゼンの妙ワカあり。産婦サンブの心神ココロモト穩平ステイヘイして。懸引衝逆ケンインシュウギャクことあけよ。決ケツく害ガイを為ナスことある。胞衣エナもそのまゝ、小子藏中コウボノウチ糜爛タランて自下オノレものあり。暑天アツナの頃コトも尤腐敗トウクサレやま。五七日イツシツを過スギびて下オリものあり。故ユエに胞衣ノチヤンいふ小くも下オリがよれものも強シて之オノレを下オリんとする小及オホシび。たゞ産婦サンブの心を安慰オチワカスことを最ダイとして。或アルヒも下オリたる塊血クハクエを胞衣ノチヤン交マシふとく婦小視メシせしめ。其心ソノココロ降オチく倦睡チムリを催オモホスやう小とべし。斷キ



たる臍帯あらハ。その物を戴く視せしむるも可。尤旁人小も戒  
く。發漏をのらしむべし。如此を色ハ其産婦の志氣必平穩小を  
至く。子藏の擥急をなれものな色ハ。胞衣下びこく。決し死ぬ  
ることななれことあり。もし胞衣下む子藏を窒礙く。残血の下  
ぬものあり。お色々そのま、小坐視おたれものなれハ。帶下鑿  
の收生媪の高手あるものを招て。過小抽去しむべし。おの色と  
を産婦の大小虚憊たる小。胞衣を暴小下て死ことま、あるを。  
車小處するもの、過小く。尊鑿生媪の恥をさることありと  
知べし。まゝ一婦産後の胞衣既小下たりと思く。寢食常小復て  
の後偶近處へ適ことありし小。運歩何の苦勞もななく。留款移

時て。廁小登し小。腹裏微痛ことを知く。陰戸より下りたる  
物あるを異て。よく看色ハ胞衣あり。大小驚駭をのらも。自曳出  
く。潜小棄たり。さく家小歸く母小かくと告小。其母習車たる老  
媪小て。前小胞衣の下る祓しと。もし懊惱し氣逆もやせんと  
慮へ。胎児とも小下たりと詔て過せしと應よりしとぞ。時過  
く自然小下るものな。は、見聞せること多け色ども。こ色ハ産  
後月を閱。他行さへ爲まで。胞衣をほ子藏裏小ありし一奇車  
あり。こ色ら小ても胞衣の下さるる。頃小命を殞不との患をれ  
ことを審知をべし。然を俗輩のなからば。坐婆も鑿工も。胞衣の  
下さると一大厄と思こと。の構味より。世間の婦人こ色かため



小氣死ナヒニをること幾イタをや。このあとの慘怛イタナシキ小より。予の老婆心セハナキコトを  
 廣人ヒロク小告コトて。横天ヒコフの寡人スナガことを欲チカラものあり。

病家須知卷之四終

三都

發行

書肆

江戸 目黒橋通壹丁目	須原屋 茂兵衛
同 目黒橋通貳丁目	山城屋 佐兵衛
同 芝神明前	須原屋 新兵衛
同	和泉屋 吉兵衛
同 兩國横山町	岡田屋 嘉七
同 淺草茅町貳丁目	和泉屋 金右衛門
京都 寺町通松原	須原屋 伊八
同 三條通寺町	勝村 次右衛門
大塚 齋橋通安堂寺町	丸屋 善兵衛
	秋田屋 太右衛門



